

増補改訂版解説

1. 教育基本語彙データベース

「教育_旧.CSV」と「教育_新.CSV」の2つから成る。「教育_旧.CSV」は、国立国語研究所報告 117『教育基本語彙の基本的研究』（明治書院，2001年）および本報告に収録したデータに語彙配当の情報を付与したものである。分類番号は、国立国語研究所資料集 6『分類語彙表』（秀英出版，1964年）に基づいている。それに対し、「教育_新.CSV」は、分類番号が、国立国語研究所資料集 14『分類語彙表 - 増補改訂版 -』（大日本図書，2004年）に基づいている。

収録した教育基本語彙は、次の7種である。簡単に説明する。詳細は、前記『教育基本語彙の基本的研究』および本報告を参照されたい（pp.5-10を参照）。

阪本教育基本語彙

阪本一郎『教育基本語彙』（牧書店，1958年）に掲載されている語彙である。A（小学校第1～第3学年）、B（小学校第4～第6学年）、C（中学校）の3つの学習段階に分けられている。さらにそれらに優先順位（数字）が付けられている。

新阪本教育基本語彙

阪本一郎『新教育基本語彙』（学芸図書，1984年）に掲載されている語彙である。阪本教育基本語彙の改訂版である。両者の比較については、前記『教育基本語彙の基本的研究』18～20頁を参照されたい。A、B、C等の学習段階の表示は阪本教育基本語彙と同じである。

田中教育基本語彙

田中久直『学習基本語彙』（新光閣書店，1956年）に掲載されている語彙である。それぞれに第1～第6学年までの指導学年が定められている。

池原教育基本語彙

池原檜雄『国語教育のための基本語体系』（六月社，1957年）に掲載されている語彙である。小学校低学年（第1～第3学年）で指導する語彙が定められている。本データベースには語位段階を掲載した。

児言研教育基本語彙

児童言語研究会『言語要素指導』（明治図書，1962年）に「児言研国語科教育基本語い・第一次試案」として掲載されている語彙である。それぞれの語をまず小学校と中学校の2つの指導段階に分け、それらをさらにA（特に大切な語い）とB（A語に続くもの）の2つに分けている。

中央教育基本語彙

中央教育研究所『学習基本語彙』（中央教育研究所，1984年）に掲載されている語彙である。小学校用である。それぞれの語にA（第1・2学年）、B（第3・4学年）、C（第5・6学年）のどれかの指導段階が与えられている。

国語研教育基本語彙

国立国語研究所『日本語教育のための基本語彙調査』（秀英出版，1984年）に掲載されている語彙である。～の教育基本語彙と違って、外国人のための教育基本語彙として作成されたものである。総語数は、6,060語で、そのうち2,030語が「より基本的な語」

とされている（語数は、報告書掲載の数字）。本データベースでは で区別した。

< 語彙配当の情報 >

『教育基本語彙の基本的研究』を刊行後、利用の便宜のために、語彙配当の情報を新たに加えた。これは、次のようにして求めたものである。

阪本のAランクのもの	1：小学校低学年
新阪本のAランクのもの	1：小学校低学年
田中で、1・2・3学年のもの	1：小学校低学年
池原にあるもの	1：小学校低学年
阪本・新阪本でCランクのもの	3：中学校
児言研で中学校のもの	3：中学校
それ以外のもの	2：小学校高学年

このようにして求めた語数は、それぞれ次のようになる。

1：小学校低学年	6,865 語
2：小学校高学年	8,620 語
3：中学校	11,749 語
合 計	27,234 語

この語彙配当の情報がだいたい当てはまっていることは、次の検証調査で分ろう。すなわち、教育基本語彙データベースからランダムに100語を抽出し、理解度を測定した。この調査で理解度とは、その語を知っていると答えた児童・生徒の百分率と定義する。語彙配当別理解度の平均値は、次のようになる。理解度の大きさと語彙配当はよく一致しているといえるだろう。なお、この検証調査は、平成18（2006）年に埼玉県熊谷市の小学校2校、中学校1校の児童生徒を対象に行った。

	低学年	高学年	中学校
小学1年生	60.3	24.0	18.3
小学2年生	71.2	35.2	25.5
小学3年生	72.6	36.9	26.1
小学4年生	79.5	45.2	32.2
小学5年生	80.0	52.2	38.7
小学6年生	90.6	69.9	54.6
中学1年生	90.8	75.3	60.5
中学2年生	94.6	84.0	70.4
中学3年生	95.0	83.1	66.8

< 教育基本語彙データベースの構成 >

教育基本語彙データベースの構成は、次のとおりである。

語彙配当

通し番号

見出し

表記

品詞

阪本教育基本語彙の情報

新阪本教育基本語彙の情報

田中教育基本語彙の情報

池原教育基本語彙の情報

児言研教育基本語彙の情報

中央教育基本語彙の情報

国語研教育基本語彙の情報

いくつかの教育基本語彙に登録されているか
語種

『分類語彙表』の分類番号

2. 日本語教育基本語彙データベース

次の6種の教育基本語彙をデータベース化したものである。語数は、それぞれの報告書に掲載されている数字でなく、データベース化した後の数字である。

(1) 国語研教育基本語彙

教育基本語彙データベースに登録したものとまったく同じである。国立国語研究所『日本語教育のための基本語彙調査』（秀英出版，1984年）に掲載されている語彙である。語数は、6,103語である。

語彙の選定手続きとしては、『分類語彙表』をもとに2回にわたる複数の専門家の判定をもとに選定した。

(2) 初級500語

国立国語研究所日本語教育センター第二研究室『日本語教育語彙資料(2) - 低学年初級500語 - (五十音順)』（国立国語研究所日本語教育センター第二研究室，1979年）に掲載されている語彙である。語数は、534語である。

語彙の選定の手続きとしては、所外の年少者日本語教育機関の専門家の判定を主に採用した。

(3) 七種対照表

国立国語研究所『日本語教育基本語彙七種比較対照表』（大蔵省印刷局，1982年）に掲載されている語彙である。語数は、6,195語である。

対照されている7種の語彙表は、以下のものである。

岡本禹一『日本語基本語彙』国際文化振興会，1944年

加藤彰彦「日本語教育における基礎学習語」『日本語教育』2号，3・4号合併号，1963・1964年

玉村文郎『Practical Japanese-English Dictionary』海外技術者研修協会，1970年

樺島忠夫・吉田弥寿夫「留学生教育のための基本語彙表」『日本語・日本文化』2号，1971年

文化庁国語課『外国人のための基本語用例辞典』1971年

J.V.Neustupny『A Classified List of Basic Japanese Vocabulary』Monash University，1977年

国立国語研究所日本語教育センター『日本語教育基本語彙第一次集計資料』1978年

(4) 工藤教育基本語彙

工藤真由美『児童生徒に対する日本語教育のための基本語彙調査』(横浜国立大学教育学部, 1996年)に掲載されている語彙である。なお,その後,ひつじ書房から1999年に市販されている。本データベースでは,市販本を元にした。語数は,6,050語である。

次の6種の語彙をデータベース化したという。

国立国語研究所『日本語教育のための基本語彙調査』秀英出版,1984年

国立国語研究所日本語教育センター第二研究室『簡約日本語の創成と教材開発に関する研究』1992年

文部省『にほんごをまなぼう(1)』ぎょうせい,1992年

大久保愛『幼児のこくご絵じてん』三省堂,1971年

林 四郎『はじめての国語じてん』NHK出版,1991年

村石昭三『こどもことばえじてん』角川書店,1982年

(5) 木幡教育基本語彙

木幡智美『児童生徒に対する日本語教育のための基本語彙調査』(横浜国立大学大学院教育学研究科,1998年)に掲載されている語彙である。語数は,7,502語である。

次の7種の語彙をデータベース化したものである。

文部省『にほんごをまなぼう(1)』1992年

大久保愛『幼児のこくご絵じてん』三省堂,1971年

林 四郎『はじめての国語じてん』NHK出版,1991年

村石昭三『こどもことばえじてん』角川書店,1982年

阪本一郎『新教育基本語彙』学芸図書,1984年

島村直己『小学校低学年用国語教科書の用語』『研究報告集』4,1983年

中曽根仁・川又瑠璃子『絵本の語彙』国立国語研究所,1994年

(6) 玉村教育基本語彙

玉村文郎『中級用語彙 - 基本 4000 語 - 』(『日本語教育』116号,2003年)に掲載されている語彙である。語数は,4,043語である。

語彙選定の手続きは,私信によると,アルクのNAFL通信講座(1987年)で選定した基本2,570語をもとに,次の基準で増補したものだという。

- 1) 総計4,000語をゴールとする。
- 2) 1987年以降の言語・通信関係を中心にした新語のうち基本的なものを選ぶ(受信,フロッピー,イーメール,コンビニ,携帯など)。
- 3) 主要宗教名を入れる(イスラム教,キリスト教,神道など)。
- 4) 外国人日本語学習者には不可欠と考えられる語は積極的に採る(パスポート,旅券,ビザ,外国人,大使館,領事館など)。
- 5) 文化・風俗・習慣の上で日本的なものは進んで採る(茶道,生け花,清める,お辞儀など)。
- 6) 全体として,社会人・学生として共通に知っていて使えると思われるもの。

このほか,国際交流基金・日本国際支援協会『日本語能力試験出題基準【改訂版】』(凡人社,2002年)もデータベースに加えようとしたが,下位級の語彙が上位級に繰り返す現れ,データベース化が難しく,加えることを断念した。

<日本語教育基本語彙データベースの構成>

日本語教育基本語彙データベースの構成は、次のとおりである。

通し番号

見出し

表記

品詞

語種

語彙配当

国語研基本語彙の情報

初級 500 語の情報

七種対照の情報

工藤基本語彙の情報

木幡基本語彙の情報

玉村基本語彙の情報

この中で、語彙配当とは、教育基本語彙データベースで設定した学習段階の情報である。また、国語研基本語彙以下、基本的に、その語彙の中に出現しているかどうかの情報だけを表示した（国語研基本語彙の場合だけ、より基本的な語彙を で区別した）。

< 品詞 >

与えた品詞を一覧すると、次のようになる。いわゆる品詞よりも細かい情報を表示した。基本は、前版の教育基本語彙データベースと同じく、『岩波国語辞典』によるが、同辞典にない語については『日本国語大辞典』を参照し、『岩波国語辞典』基準に従って入力した。『日本国語大辞典』にもないものは、島村個人の判断で入力した。

名

代

五自

五自他

五他

四他

カ変自

サ変自

サ変自他

サ変他

ス自

ス自他

ス他

トス自

上一自

上一自他

上一他

下一自

下一自他

下一他
形
形動
副
トタル
連体
接
感
格助
間助
係助
終助
副助
接助
助動
接頭
接尾
造
連語

< 語彙配当とのクロス >

教育基本語彙データベースの語彙配当とクロスをすると、それぞれ以下のようになる。

(1) 国語研教育基本語彙

低学年 3,082 語 (50.5 %)
高学年 2,130 語 (34.9 %)
中学校 891 語 (14.6 %)
合 計 6,103 語 (100.0 %)

(2) 初級 500 語

低学年 502 語 (94.0 %)
高学年 20 語 (3.7 %)
中学校 2 語 (0.4 %)
その他 10 語 (1.9 %)
合 計 534 語 (100.0 %)

(3) 七種対照表

低学年 3,260 語 (52.7 %)
高学年 1,693 語 (27.3 %)
中学校 664 語 (10.7 %)
その他 578 語 (9.3 %)
合 計 6,195 語 (100.0 %)

(4) 工藤教育基本語彙

低学年 3,590 語 (59.4 %)

高学年 1,376 語 (22.7 %)
中学校 384 語 (6.3 %)
その他 700 語 (11.6 %)

合 計 6,050 語 (100.0 %)

(5) 木幡教育基本語彙

低学年 4,679 語 (62.4 %)
高学年 1,185 語 (15.8 %)
中学校 303 語 (4.0 %)
その他 1,335 語 (17.8 %)

合 計 7,502 語 (100.0 %)

(6) 玉村教育基本語彙

低学年 2,419 語 (59.8 %)
高学年 1,100 語 (27.2 %)
中学校 387 語 (9.6 %)
その他 137 語 (3.4 %)

合 計 4,043 語 (100.0 %)

以上は、教育基本語彙データベースの語彙配当の情報を元にした各教育基本語彙の評価である。問題点を1つ指摘するだけで、論評を行うことは避けよう。それは、日本語教育の基本語彙はやたらと語形をまとめていることである。データベース化するにあたってこれが大きな問題点であったが(本データベースでは語形を分けた)、実用的にも言語学的にも問題がある。実用的にはどの語形を使ってよいかという問題がある。言語学的には、語形の違いは意味の違いを示すということを忘れている。ソシユールのにいえば、「形式が違うものは価値が異なるのである」。語形をまとめている例をいくつか示そう。

国語研教育基本語彙

きんよう / きん (金曜・金)

げつよう / げつ (月曜・月)

ごご / ご (午後・後)

こちら / こっち

ほんと / ほんとう

初級 500 語

家 (いえ , うち , け)

山 (やま , さん)

紙 (かみ , し)

小さい・小さな

そちら・そっち

七種対照表

あなた / あんた

ありがとう (ございました)

いちよう (に)

きんよう / きん (び) (金曜日)

ごくろう(さま)(御苦労様)

工藤教育基本語彙

ありがとう(ございます)

いい/よい(良)

いいえ/いえ

こな/こ(粉)

べつ二

木幡教育基本語彙

いい/よい(良)

いき二(一気)

うえ/うわ(上)

しんじる/ずる(信)

- ちゃま/ちゃん

玉村教育基本語彙

一般(に)

インク(インキ)

おくさん/おくさま

かさ(傘・笠)

そうして・そして

3. おわりに

理解語彙量に関して、平成9(2001)年に埼玉県熊谷市の小学校2校、中学校1校の児童・生徒を対象に調査したが、それによると、理解語彙量は次のように発達する。

小学1年生	12,175 語
小学2年生	15,765 語
小学3年生	19,088 語
小学4年生	19,046 語
小学5年生	22,309 語
小学6年生	30,646 語
中学1年生	32,593 語
中学2年生	33,049 語
中学3年生	39,502 語

これは、国立国語研究所の『分類語彙表 増補版』のモニター版 71670 語からランダムに 200 語を抽出して、児童・生徒に「知っている」か「知らないか」を判定させた結果である。このような方法は、たとえば、小学3年生と小学4年生とがほとんど同じとなるように、被験者の認知方略の影響を受けるのであまりいい方法ではないのだが、ひとまずこれを参考にすると、教育基本語彙データベースでも 30,000 語に足らず、語彙の不足を感じさせる。それに収録している教育基本語彙が古い。改訂の必要があるだろう。

日本語教育については信頼のできる教育基本語彙の作成が緊急に求められているといつてよいだろう。これも今後の課題の1つになると思われる。

